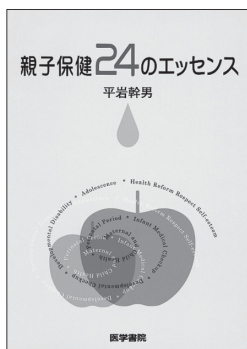


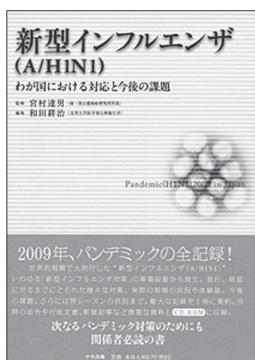
今月の3冊プラス1



親子保健 24のエッセンス

著：平岩幹男 発行：医学書院 TEL.03-3817-5657
定価：2520 円(本体 2400 円+税 5%)

『公衆衛生』誌での連載「保健師さんに伝えたい 24 のエッセンスー親子保健を中心に」をまとめた本。まず、日本における保健師の仕事と保健領域の構造に触れ、親子保健の現状と課題を概観する。その後、産後うつや授乳・離乳支援、新生児訪問をはじめとする周産期に関わる問題、歯科保健や予防接種、児童虐待など乳幼児健診をめぐる考え方や、発育や発達障害などに関する問題、不登校や飲酒・喫煙、性教育といった思春期の問題に焦点を当てる。最終章では保健事業を進めていくにあたっての考え方をまとめる。親子保健に携わる保健師にとって必読の 1 冊。

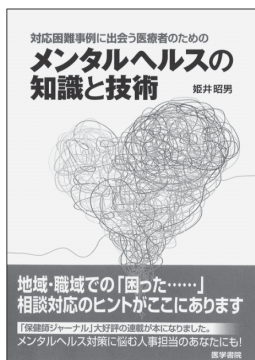


新型インフルエンザ (A/H1N1)

わが国における対応と今後の課題

監修：宮村達男 編集：和田耕治 発行：中央法規出版 TEL.03-3379-3861
定価：6720 円(本体 6400 円+税 5%)

2009 年に大流行した新型インフルエンザ (A/H1N1) に関し、発生から収束までと翌シーズンの状況や、国・自治体の対応、現場で実際に対応にあたった関係者の体験談などを体系的かつ時系列にまとめた記録集である。当時の法令や行政文書、新聞記事などの資料も付録の CD-ROM に収録されており、貴重である。幸いにして国内での死亡率は比較的低い水準に留まったが、そのために今後油断が生じる可能性もある。「おわりに」ではマスコミ対応の難しさが取り上げられているが、その点も含めた保健師の対応については本誌 11 月号の特集において記録されているので、そちらもご参照いただきたい。



対応困難事例に出会う医療者のためのメンタルヘルスの知識と技術

著：姫井昭男 発行：医学書院 TEL.03-3817-5657
定価：2520 円(本体 2400 円+税 5%)

弊誌で 2008 年 6 月から 1 年 7 か月にわたり連載された「対応困難ケースに出会う保健師のためのメンタルヘルスの知識と技術」に、最近のメンタルヘルスのトピックスを新たに追記してまとめた。単行本化にあたり、連載時から好評だった産業保健師や相談業務従事者のほか、地域や職域でメンタルヘルス事例に関わるすべての支援者向けに整理した。著者の実際の経験や、相談で寄せられた事例をもとにした典型的な仮想ケースを事例としてとりあげ、「どのような問題があるのか」「どのようなところに着目すべきか」を指摘し、ポイントがわかりやすく解説されている。



日本のデザイン 美意識がつくる未来

著：原研哉 発行：岩波書店 TEL.03-5210-4111
定価：840 円(本体 800 円+税 5%)

伝統的なものからモダンなものまで、コンパクトカーや柳宗理の薬缶、東山御殿など、いくつかの製品をもとに、日本における美意識を考える 1 冊である。こうした日本の感受性を未来において取り戻していくことが、この国の可能性と誇りを保持していく上で有効ではないか、と著者は考える。東日本大震災を契機に、日本はエネルギー政策の再考を余儀なくされるだろう。そのようななかで、大量生産、大量消費から脱却し、生活様式に根づいたデザインに学ぶことで未来への道筋も見えてくるのではないだろうか。